

「わたしを信じなさい」

～すべての心配事を主に任せる～

「あなたがたは、どんなことがあっても、心配したりあわてたりしてはいけません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」ヨハネによる福音書14章1節〔リビングバイブル〕

今年も、ノーベル賞の季節になりました。昨年の文学賞は、歌手のボブ・ディラン氏でしたが、今年は日系英国人のカズオ・イシグロ氏の受賞となりました。日本人が英国人としてノーベル文学賞を受賞するということはさらに素晴らしいことであると感じます。日本人として誇りに感じます。

世界の混乱、日本の政治も大混乱している時代にあって、私たちの心の拠り所が必要です。そんな時代だからこそ、小説に心を向ける人も多いのではないかと思います。

イエス様がこの地上を離れる時に、弟子たちを目の前にして、「心を乱してはいけません。」と語りました。私たちはそんなに強くない存在です。心の拠り所を失ったらすぐに崩れてしまう存在です。そんなときに重要なのは、何か絶対的に信じることができるものを持っているかどうかです。私たち人間はどうしても、目に見える世界に解決を求めようとします。しかし、それらはすべて有限であるので、必ず裏切られるものです。しかし、イエス様はこれからいなくなります、実際にはいなくなるのではなく、目に見えない無限の存在、絶対的存在としてこれからも弟子たちを導くお方であることをお教えになりました。だからこそ、「神を信じ、わたしを信じなさい」とおっしゃったのです。

心配し、不安になるのが人間の性質であるなら、それはしょうがないとあきらめてしまいたくもなりますが、そうしてはならない。その不安な要素に身を、心を任せてはなりません。と主は語られたのではないかと思います。なぜなら、心配や不安は私たちの心を弱らせ、また、体をも弱らせ、最終的には私たち自身を滅ぼすことを主はご存じだったからではないかと理解する必要があるのかもしれない。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」(1ペテロ5:7・新改)とペテロは語っていますが、その後には、「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのよう、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」(5:8)と書かれていますように、神様が私たちの心配事をお取り扱いくださっておられるのに、それを無視して、心配し続けるなら、悪魔が私たちを食い尽くしてしまうことになるとペテロは警告しているのです。

不安材料は山積していますが、私たちは日々それらを主に委ね続けていかなければなりません。握った手を放し、すべてを主に任せて、その御力をいただきましょう！「…あなたがたを完全な者とし、強め、力づけ、揺らくことがないようにしてくださいます。」(5:10・新共同)